



下水道事業

調査対策特別委員会

委員長 村上知巳

1 平成18年度
下水道事業計画

昨年10月供用開始された山ノ井、久富、島田、四ヶ所地区の一部と第一期認可区域内での未整備個所の公共下水道管渠布設を計画。

また高江、西牟田、久富の一部の基本計画と詳細設計、下水道工事に伴う水道管移設工事費用等で、公共下水道事業等にかかわる経費7億2,776万円を計上。

また県が実施する矢部川流域下水道事業等に要する経費として、処理場施設内整備、幹線の管渠施設設計委託費に要する経費の負担金1億8,362万円を計上。

2 下水道への
接続状況

第一期供用開始区域内の公共マス見直しは2,300戸である。全国平均一ヶ年の接続率が約38%である

が見通しでは約32%で低い進捗状況である。今後の啓発が必要である。

3 排水施設接続工事
補助金(市補助)

供用開始一ヶ年で市の工事を完了検査終了は10万円。2ヶ年は8万円。3ヶ年は5万円。今後は住民への周知徹底と指定店も無理な受注を控えるよう啓発が必要。

4 下水道全体計画の
見直し

下水道は整備費が高く、整備期間が長期に渡る。平成14年度に汚水処理構想の見直しを行っているが、その後5～6年が経過し、社会情勢の変化、財政状況等悪化で全体計画の見直しの要望が強い。県、3市3町で、平成20年度を目途に見直しの基礎調査を予定。

退任あいさつ

前議長 大藪 健介



前副議長 若菜 道明



前監査委員 永松 康生



2年間の議長職を終えることとなりましたが、任期中には第四次総合計画の決定。議会内では議会だよりの充実や予算・決算特別委員会の設置など、一定の前進ができたと思っております。

副議長を辞することとなりましたが、これまでご協力とご支持をいただいた皆様に、深く感謝を申し上げます。

監査委員を辞するにあたり、任期中の皆様のご協力に深く感謝申し上げます。夕張市の例を持ち出すまでもなく、地方自治体の財政は厳しさを増しています。今後議会だけでなく、市民の方々が市の財政運営に関心をもつていただくことをご期待申し上げます。ご挨拶いたします。

～おわび～
今回の議会だよりの発行が、諸般の事情により遅れましたことをおわび申し上げます。
また、3月議会において、「ちくご市議会だよりの編集特別委員会の活動報告」をいたしました。この件につきましては、前号までの「ちくご市議会だよりの発行」にて報告に代えさせていただきます。

編集後記

今年3月に亡くなった城山三郎さんの著書の一つに『男子の本懐』があります。戦前わが国が今日と同じような財政危機に直面した時、時の総理浜口雄幸と大蔵大臣井上準之助がいかにかしてその難局に臨もうとしたかがテーマでした。

この本の最後に書かれていた、憲政の神様“尾崎行雄の晩年の言葉が、今も脳裏に焼きついていきます。
「人生は常に将来にあり」彼は、将来のこの国をどう描くかを絶えず胸に刻み、人生を歩んできたのではないかと推察されます。

4月の選挙で19人の議員が選出されます。筑後市の未来をどう描くのか。議員の役割もここにあるのではないかと思います。

ちくご市議会だよりの
編集特別委員会

- 委員長 貝田 義博
- 副委員長 五十嵐 多喜子
- 委員 矢加部 茂晴
- 委員 田中 親彦
- 委員 入部 登喜男
- 委員 水町 好

ちくご市議会だよりの発行 筑後市議会 編集 ちくご市議会だよりの編集特別委員会 〒833-8601 福岡県筑後市大字山ノ井898番地 TEL 0942-53-4013 FAX 0942-53-4228